

<学科長挨拶>

物質創成化学科長 川上 淳

2022 年度の物質創成化学科長の川上です。弘化会会員の皆様には日頃より大変お世話になっております。学科を代表して感謝申し上げます。

さて、学科の近況についてお伝えします。

物質創成化学科では、2020 年 3 月に糠塚いそし先生、2021 年 3 月には澤田英夫先生、そして本年 3 月には吉澤篤先生と、長きにわたり物質創成化学科だけではなく、弘前大学に対して多大な貢献をされてこられた、学科の顔とも言える教授の先生方 3 名が、立て続けに定年退職を迎えました。これに伴い、増野敦信先生と私が昨年 10 月 1 日付けで、鷺坂将伸先生が本年 4 月 1 日付けで、それぞれ准教授から教授に昇任いたしました。また、本年 3 月 16 日付けで、関口龍太先生がテニュアトラック助教として着任されました。関口先生は、弘化会の正会員、すなわち本学科の卒業生（伊東俊司研究室出身）です。卒業生の教員採用は、糠塚先生以来だと思えます。大変喜ばしいことです。更に、本年 6 月と 10 月には、2 人の新任教員の助教の先生方が着任されることが決まっています。関口先生と 2 名の新任教員の方は、いずれも 30 代で、学科に新しい風と若さをもたらしてくれるものと期待しています。

次に、2022 年度の大学入試についてお伝えしたいと思います。

2021 年度入試では、物質創成化学科の志望者数が激減したこともあり、多方面からご心配いただきました。新型コロナウイルス感染症の影響や、多くの大学で課していない志望理由書の提出を求めたことなど、様々な要因によるものと思われませんが、学科としても何もしないわけにはいけませんので、昨年 7 月に、前学科長の阿部敏之先生の発案で、青森地区、弘前地区、上十三地区、下北地区、五所川原地区、秋田地区の計 13 校に教員が手分けして高校訪問を行いました（五所川原地区、秋田地区は澤田先生にお手伝いいただきました）。おかげさまで、2022 年度入試では、総合型選抜 I の志願者数が前年度の 19 名から 26 名、前期日程は 25 名から 79 名、後期日程は 49 名から 118 名と、いずれも大幅増となり、無事に 53 名の新生を迎えることができました。

次は、本年度の科学研究費助成金（科研費）の採択状況についてお伝えします。物質創成化学科に所属の 9 名の先生方が研究代表者として新規に科研費を採択されました。この人数は、理工学部の新規採択者の 3 分の 1 に相当する人数で、継続や研究分担者の方を含めると、物質創成化学科の殆どの教員が科研費を獲得していることとなります。ご存知の様に、大学の研究予算は年々削減されている中、安定した研究活動を行う上で、科研費のような外部資金の獲得は非常に重要です。各先生方の的確な研究計画の立案と努力による素晴らしい結果だと思えます。

最後になりますが、この4月から新しい理工学研究科長/理工学部長に、本学科教授の岡崎雅明先生が就任されました。今年からの数年間は、岡崎先生の舵取りのもと理工学部は進んで行くこととなります。理工学部、そして物質創成化学科の今後の教育・研究活動にどうぞご期待下さい。また、皆様には引き続きのご支援を賜りたく存じます。宜しくお願いいたします。